

広報広聴特別委員会会議記録

【開催日】 平成28年5月10日（火）

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前10時～午前11時38分

【出席委員】

委員長	長谷川 知 司	副委員長	河 野 朋 子
委員	大 井 淳一朗	委員	笹 木 慶 之
委員	下 瀬 俊 夫	委員	中 村 博 行
委員	矢 田 松 夫	委員	山 田 伸 幸
委員	吉 永 美 子		

【欠席委員】 なし

【委員外議員等】 なし

【事務局出席者】

局長	中 村 聡	局次長	清 水 保
書記	原 川 寛 子		

【付議事項】

- 1 議会市民懇談会について
- 2 議会報告会のあり方について
- 3 その他

【議事の概要】

- 1 議会市民懇談会について
 - 3月30日及び4月18日の報告書について
 - ・2つの報告書の形式を統一する。
 - ・発言者を「参加者」ではなく「市民」に統一する。
 - ・「3月の市民懇談会は多くの質疑があった割に量的に少ないが」との質問に「記録者のほうである程度項目ごとにまとめて集約されており、二人の委員長で確認をして責任を持って出している」との説明があった。
 - ・4月18日分の質疑の中にある「適正通学」という言葉について本当にこのような発言があったのか委員長が発言者に確認する。
 - 小埴生連合自治会からの申込みについて
 - ・前回までと同様に総務と一般会計の委員会で担当する。
 - ・相手方の希望どおり5月22日（日曜日）で対応する。

2 議会報告会のあり方について

○議会報告会の総括について

- ・議会の説明責任から出発したが、今後に発展していく上では一定の総括が必要である。
- ・議会と市民との関係をどう作っていくかが新しいテーマであり、そのために議会報告会をどう変えていくかを中心に議論する必要がある。
- ・6月をどうするかと総括は並行して考えていかないと間に合わない。
- ・現時点での課題をまず洗い出して、6月を考えるほうが今後につながる。
- ・これまで出た意見を委員長がまとめ、総括を作ったほうがいい。

○議会と市民との関係

- ・市民が関心を持っているところでは人は集まり、意見も出た。市民に説明責任を果たす上で地域性もあるのに、それを無視してしまっていた。
- ・執行部とは違うので、どこまで踏み込めるのかという問題がある。
- ・市の根幹となる事業と地域によるテーマの両者を織り成して報告できるならいいが、現実的には難しい。
- ・埴生では予算修正を評価するという意見があり、市民の議会に対する見方も変わってきているように感じた。議会の変化が第一で、それをどう市民が受け取るかにより議会と市民の関係性が変わってくるのではないか。
- ・埴生の件は小野田側からも意見が出た。市民が自由にいろいろな意見を言える議会報告会を作っていくといけない。
- ・出された意見がどのように生かされるかが目に見えれば市民との関係もよくなると思う。
- ・審議状況だけで議員の考えが聞けないということがアンケートで言われる。テーブルごと島を作って意見交換する方式にしたほうが議員と市民がお互い意見を言いやすい。
- ・地域の課題であっても、それを市全体の課題としてどう捉えていくのが今後問われている。
- ・なぜ政治不信や行政不信なのか、関心がないのかを掘り下げないと、同じことの繰り返しになる。

○議会報告会での要望・意見の取扱いについて

- ・議会報告会での意見を担当委員会できちんと議論して、執行部に投げ返していく、そして執行部が見方を変えていくという循環型の議会運営が求められている。
- ・広報広聴から委員会に下ろし、委員会から広報広聴に戻して、次の議会報告会で説明するとなると時間が掛かる。スピード感がないので、仕組みを考えないといけない。
- ・住民の要望を議会が取り上げ、政策化するという具体的なサイクルを考えていかないと言いっ放し、聞きっ放しで終わってしまう感じがする。
- ・広報広聴委員会で市民の意見をちゃんと紙にまとめ委員会に渡し、それを紙で広報広聴に戻してもらって次の議会報告会で報告するという流れを作ったほうがいい。
- ・進捗状況を表にし、解決済み、検討中という形で見える化してホームページ

ジにアップしている議会もある。

- ・次の議会報告会に来られない場合もあるが、現状どうかを知らせること自体は議会報告会の一つの役割だと思う。

○今後（６月）の開催について

- ・地域に行くのだから、自治会や地域の団体と共催し、地域と一緒にやっていく方向に持っていかないと市民との結び付きが薄くなる。
- ・テーマによってはターゲットや回るところを考えないといけない。例えば子育てであればココシエや児童館を会場にするのも手法の一つである。
- ・議員が各地域の情報を仕入れて、その上で公民館以外にも細かく回っていくという仕掛けも必要ではないか。
- ・各地域に合わせてやるのは難しいと思うので、市内で一つのテーマにして市民の中に入って行くやり方かどうか。
- ・地域別にテーマを変えてやるのは難しい。従来どおりの６会場で常任委員会の報告は１件ずつで、あとは三つぐらいのテーマについて要望や意見を求めるということで取り掛かったらどうか。
- ・テーマを決めただけで議会報告会に人が集まるのか、説明責任を果たすことができるかは疑問である。
- ・６会場に固執せず、小野田と山陽で分けてやったらどうか。

○テーマについて

- ・子育て支援、駅前、公共交通
- ・理科大の周辺で下水の進捗状況や公共交通
- ・最初は全市的なテーマがいい。
- ・地域医療のあり方
- ・理科大生や高校生など若い世代との対話
- ・空き家の活用
- ・子育てのテーマで児童館や子育て支援センターを会場に出掛けていく。

○その他

- ・地域の要望を聞くとすると「議会報告会」の名称を変えたほうがいいのではないか。
- ・若い人たちと議会との交流の場をどう設定するか検討していきたい。

＊委員長がこれまで出た議会報告会の在り方についての意見を踏まえ、総括を作成する。

＊１３日の午前中までにテーマや会場、議会報告会の課題について各自レポートを作成し、事務局に提出する。

平成２８年（２０１６年）５月１０日

広報広聴特別委員会委員長　長谷川　知司